

令和4年(2022)7月教育委員会定例会 会議録

令和4年(2022)7月26日(火)午後2時00分、出雲市教育委員会定例会を出雲市役所6階委員会室に招集した。

1 会議に出席した者

教育長	杉谷 学
教育委員(教育長職務代理)	金築千晴
教育委員	内藤祐馬
教育委員	高橋 詠
教育委員	川田量子

2 説明のため会議に出席した者

副教育長	安井孝治
教育部次長	山崎 創
教育部次長	園山裕二
教育部(子ども未来部)次長	金築健志
市民文化部次長	片寄友子
教育政策課長	常松博雄
学校教育課長	福間耕治
児童生徒支援課長	松井博之
出雲学校給食課長	林 辰昭
出雲科学館	鬼村修治
学校教育課主査	山本芳正
児童生徒支援課課長補佐	妹尾博貴
文化財課主任	安田晋也

3 会議の書記

教育政策課課長補佐	池尻精二
-----------	------

4 傍聴者

0名

開会

(杉谷教育長)ただいまから、令和4年7月出雲市教育委員会定例会を開会します。本日の会議は、お手元に配付しておりますとおり行いますので、よろしくお願いいたします。

1 教育長行政報告

(杉谷教育長)まず、「教育長行政報告」を行います。

(以下、報告項目のみ掲載)

1 前回以降の動向 (前回 R4. 6. 27)

R4.6. 28	市議会閉会 ・ 全員協議会
R4.6. 29	出雲科学館視察対応(県学校企画課長)、 定例記者会見
R4.6. 30	第3回島根県競技力向上対策本部会議(松江市) 贈呈式(出雲法人会)
R4.7. 1	社会を明るくするメッセージ伝達式(ビッグハート出雲)
R4.7. 4	子どもの貧困対策全国キャラバンin島根(オンライン)
R4.7. 5	出雲科学館運営理事会、 市長の学校訪問(斐川西中)
R4.7. 6	市長の学校訪問(第二中)
R4.7. 7	校長の会議
R4.7. 8	全国市町村教育委員会連合会副会長会議、第2回常任理事・理事会(東京)
R4.7. 11	出雲教育事務所長訪問
R4.7. 15	新型コロナウイルス感染症対策本部会議 島根県市町村教育委員会連合会理事会・総会・研修会(オンライン)
R4.7. 16	出雲科学館20周年記念式典 ・ 特別講演会
R4.7. 19	市災害対策本部会議
R4.7. 22	第2回都市教育長会定例会(浜田市)
R4.7. 25	いじめ問題への対応状況に特化した校長面接(～8月3日)
R4.7. 26	定例教育委員会

2 今後の予定

R4.7. 27	市長と校長会との懇談会
R4.7. 28	定例記者会見
R4.7. 29	市議会全員協議会
R4.8. 2	県知事・県教育長要望(松江市)
R4.8. 3	フレンドシップ事業 ・ 中学生サミット
R4.8. 4	島根県人権教育研究大会(ビッグハート出雲)、 教育政策審議会
R4.8. 5	第18回日本スカウトジャンボリー(湖遊館)
R4.8. 11	出雲市戦没者追悼・平和祈念式典(出雲市民会館)
R4.8. 19	校長の会議(弥生の森博物館)
R4.8. 20	同和教育講演会(出雲市民会館)
R4.8. 22	教育政策審議会
R4.8. 23	定例記者会見
R4.8. 24	イクボス講演会、 定例教育委員会、 まちづくりミーティング(東地区)

3. 島根県市町村教育委員会連合会 総会 ・ 研修会 報告

(川田委員)感想を発表

(内藤委員)感想を発表

(杉谷教育長)以上の報告について、何か質問等はありませんか。

(各委員)なし。

2 会議録の承認

(杉谷教育長)続きまして、会議録の承認に入ります。前回6月定例会の会議録について、何か意見等はありませんか。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)特に意見等がありませんので、6月定例会の会議録については承認することといたします。署名については、会議終了後にお願いいたします。

3 議事

(杉谷教育長)それでは、ここから議事に入ります。まず、「議第27号 出雲市教育委員会感謝状贈呈者の決定について」を議題といたします。教育政策課 常松課長に説明をお願いします。

(常松教育政策課長)資料を用いて説明

(杉谷教育長)さきほど説明いたしました事柄につきまして、委員のみなさまから質疑ございませんでしょうか。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)特にないようでございますので、「議第27号 出雲市教育委員会感謝状贈呈者の決定について」を承認することについて、ご異議ございませんか。

(各委員)異議なし。

(杉谷教育長)ご異議ございませんので、「議第27号 出雲市教育委員会感謝状贈呈者の決定について」を承認いたします。

(杉谷教育長)続きまして、「議第28号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の任命について」を議題といたします、教育政策課 常松課長に説明をお願いします

す。

(常松教育政策課長)資料を用いて説明

(杉谷教育長)さきほどの説明について、委員のみなさまから質疑がございませんでしょうか。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)特にないようではありますが、「議第28号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の任命について」を承認することについて、ご異議ございませんか。

(各委員)異議なし。

(杉谷教育長)ご異議ございませんので、「議第28号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の任命について」を承認いたします。

(杉谷教育長)続きまして、「議第29号 出雲市立幼稚園における幼稚園運営協議会委員の辞任及び任命について」を議題といたします。子ども未来部金築次長から説明をお願いします。

(金築子ども未来部次長)資料を用いて説明

(杉谷教育長)さきほどの説明につきまして、委員のみなさまから質疑がございませんでしょうか。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)特にないようですので、「議第29号 出雲市立幼稚園における幼稚園運営協議会委員の辞任及び任命について」を承認することについて、ご異議ございませんか。

(各委員)異議なし。

(杉谷教育長)ご異議ありませんので、「議第29号 出雲市立幼稚園における幼稚園運営協議会委員の辞任及び任命について」、承認いたします。議事の方は、以上で終了

といたします。

4 協議

(杉谷教育長)第4期出雲市教育振興計画パブリックコメントに対する回答・対応について、教育政策課 常松課長から説明をお願いします。

(常松教育政策課長)資料を用いて説明

(杉谷教育長)5件の意見があったということで、その内容と回答案について、説明いたしました。表の囲みの下に、教育振興計画の該当する部分を記載しております。先ほどの、5つの回答案について、質問なり、ご意見があればおきかせいただきたいと思います。内藤委員。

(内藤委員)確認ですが、NO. 2のGIGAスクール運営支援センター事業とICT支援員というのは、イコールだと考えてよろしいのですか。

(杉谷教育長)福間課長。

(福間学校教育課長) GIGAスクール運営支援センター事業というのは、国がICT活用を進める中で、全国の自治体に作られませんかと言っているものです。一定の補助とかあるものです。そこで、想定されているものが、現場に赴いて、活用を指導するようなICT支援員、学校から操作の不明な点等を問い合わせするコールセンター機能、また、教職員向けの研修といったところを想定しております。これに関しては、本市の方ではいずれも、既に実施しているということもありまして、新たにそういった機能を設けるといった必要がないものであります。現時点で、センターといった名称で新たに機能を設ける予定は、ないという意味での回答となっております。

(杉谷教育長)内藤委員いかがでしょう。

(内藤委員)その内容でしたら、理解いたしました。No. 3の60分程度と時間がありますが、現在はどのような状況でしょうか。何分なんでしょうか。

(杉谷教育長)福間学校教育課長。

(福間学校教育課長)学校によって、多少違いがありますが、小学校で45分程度、中学校

で35分から40分程度が多くなっております。ゆったりした時間をとることにこしたことはないかもしれません。午後の授業もありますし、1日の生活時程を組む中で、それぞれ学校の方で適切に判断されていると考えております。

(杉谷教育長)内藤委員いかがでしょう。

(内藤委員)理解しました。

(杉谷教育長)金築委員。

(金築委員)保護者さんから意見をいただくといいのかなと思っていたんですけども、保護者さんからはご意見とか、反応はないということですか。

(杉谷教育長)常松教育政策課長。

(常松教育政策課長)残念ながら、そういった反応はありませんでした。

(杉谷教育長)他の委員さんよろしいでしょうか。

(各委員)ありません。

(杉谷教育長)それでは、第4期出雲市教育振興計画パブリックコメントに対する回答・対応について、提案のとおりとさせていただきますことを承認することについて、ご異議ありませんでしょうか。

(各委員)異議なし。

(杉谷教育長) ご異議ございませんので、「第4期出雲市教育振興計画パブリックコメントに対する回答・対応について」は、提案のとおりとさせていただきます。以上で、協議事項は終了いたします。

5 報告

(杉谷教育長)まず、「令和4年度(2022)始業式及び終業式一覧」について、福間学校教育課長から説明をお願いします。

(福間学校教育課長)資料を用いて説明

(杉谷教育長)さきほどの説明に委員のみなさまから質疑がございませんでしょうか。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)26番の多伎小学校が、終業式が7月29日となっています。ここが一番遅くなっています。次に、「第Ⅲ期出雲市学力向上推進プランについて」、福間学校教育課長から説明をお願いします。

(福間学校教育課長)資料を用いて説明

(杉谷教育長)質問等があれば、お願いいたします。ございませんでしょうか。内藤委員。

(内藤委員)重点的に育成すべき力の部分で、「目標」ということですが、具体的には目標とはどういうことを考えておられるのでしょうか。

(杉谷教育長) 福間課長。

(福間学校教育課長)児童生徒それぞれによって、違うと考えています。短期、長期それぞれの目標というのが、児童生徒それぞれにあると思います。目標、夢というものを持って、主体的に、そして仲間と協働しながら学ぶ力を育成したいということで、この項目を掲げております。

(杉谷教育長)内藤委員。

(内藤委員)夢ということになると、子どもたちが見つけることが大変ではないかと思えます。目標というところを全面に押し出されると、難しくなってしまうのかなと考えてしまうところがあります。見つけることができる子は、すぐ見つけられるのですが、それをここに生かしていけるのかどうかかわからないです。夢となると現実に繋げていくことが難しいだろうなど。後々、結果を出したときに、大変なことになるのではないのかなと思いました。意見です。

(杉谷教育長)本体の方に、これまでの実態の数値とか、目標とする指標等があります。その辺りを含めて、説明を。

(福岡学校教育課長)8ページからそれぞれの指標を載せております。これまでのプランでは、指標というのは載せておりません。リーダー会議において、今回のプランを作成するに当たって、前期プランの評価をする際に、なかなか評価ができないということもありました。すべての項目について、できるわけではないが、今回指標設定をしています。8ページで言いますと、「主体的・対話的で深い学び」、学ぶこと、追究することの楽しさが実感でき、児童生徒が主体的に学びに向かおうとする授業への改善を行います。と言うことを目指す訳ですが、8ページの一番上の「主体的・対話的で深い学び」の過程を重視した学習を計画的に取り入れている学校の割合と言うことで、令和3年度の状況が小学校約63%、中学校約71%となっています。まさに、これは授業改善を行っていくうえで、主体的・対話的で深い学びに向けた授業の実現と言うことで、目指すところです。これは、すべての学校で目指したいと言うことで、令和8年度に100%の目標設定をしています。また、この項目の中にICTの活用ということもあるのですが、ただ単にICTを使うということではなくて、児童生徒と教職員がやりとりをする場面で使う。例えば、Teamsという機能があるのですが、ただ単にWordやExcellを使うのではなくて、やりとりをする場面で使えるかどうか、と言うのが令和3年度では非常に低い状況にあります。これらも100%を目指していくと言うことで、目標設定をしているところです。そうした形で100%を目標設定しているものも多々あります。例えば、9ページの一番上の主体的な学びに結びつく家庭学習の充実の項目になりますが、この項目については、令和3年度に比して10パーセントの増加を令和8年度の目標として設定しています。いずれも、計画を立てて勉強しているかという話です。特に2つ目の1日当たり1時間以上勉強しているという項目は、毎年度学力調査の中で調査もしていますが、小学校において、令和3年度は約70%、これを10%上げたいということです。中学生については、2時間以上ということにしております。全国と比べても、この部分が低くて、令和3年度が23.4%ということです。ここについては、10%アップということではなくて、倍増ということで50.0%としています。こうした形で目標設定をしています。100%にするものと、基本10%アップを目指すものと目標設定をしています。

(杉谷教育長)委員ご指摘の重点的に育成すべき力の指標というものは、難しくても、それを具体化するための指標を設定していくことで、重点的に育成すべき力が付けられるのではないかと考えているところです。内藤委員。

(内藤委員)内容は、理解しました。それぞれ目標が設定されているということで、目標の達成に向かっていくんだなと、大体のところ内容は理解させていただきました。学びを広げる力のところで「学びを生活と結び付けて考える力、学びを人生や社会に生かす力」というところについても、説明をいただきたいです。

(杉谷教育長)福間学校教育課長。

(福間学校教育課長)学校での学習でいろいろなことを学びます。将来的な部分も含んでいるところがありますが、非常に多様化する社会の中で、小・中学校で身に付けた基礎学力をもとに、さらにそれを生活に結びつけたり、将来発展させる力、応用力のある力を育成したいということで、こういった項目を置いております。

(杉谷教育長)内藤委員。

(内藤委員)学校の勉強と生活というのは、なかなか結びついていかないなと思っているのですが、それをどのように結びつけていくのか。非常に難しいことだと思いますので、しっかりやられて結論を出していただきたいと思います。

(杉谷教育長)安井副教育長。

(安井副教育長)最初のところで、まず目標を持つことが出来ない子がいるという話がありました。仰るとおりです。誰もがしっかりと目標を定めているわけではないので、言葉として書いておりますが、「自ら目標を持ち」と、解説はしてないですが、自ら目標を持つことが重要であると。その目標がどういうものかと言うことはいろいろありますが、小さな次の書き取りテストで100点をとるというところから、将来こういう仕事に就きたい。いろいろあると思いますが、その辺りはふるさとキャリア教育などによって、大きな目標を持ってもらうようにしていくと。まず、目標自体を自ら定めるところからと考えております。学びを広げる力と言うことで、学校で勉強をしてこれが何の役に立つのか、この疑問は非常にあると思います。国の方でも、ようやく生活に密着した、使える学びだということを進めていった方が、身に付きやすく、実際必要であるという考え方に変わってきております。それがオープンになってきたので、今回加えたところです。実際に子どもたちが、生活の中で算数や国語や理科で習うことが、生活の中で役立っていると実感しながら、結びつけながら、授業をする側はそうしていくし、子どもたちも身に付けてほしいと、そういう意味合いでやっております。最初の目標については、学習状況調査の中でも将来の夢・希望を持っていますかという質問肢もある状況です。みんなが持っていないところが、正直なところでは。その率も少しずつ高めていって、みんなが夢を持って、実現する力をつけていきたいということで、重点的な3本ということにさせていただいております。

(杉谷教育長)他の委員いかがでしょうか。国の学力調査の問題は、生活と結びつけるような内容の問題でした。問題を考える人は、こういうことを理解しているのだなと窺える調査でした。学校では、なかなかそういう教材を与えていない。授業は授業、さきほど副教育長が言いましたように、それが生活にどう生かされるのか、実感させていないという

のが今の授業の実態だと思います。教育委員会がすべきことの中に授業改善ということがあるのですが、授業の質を高めていかなければならないと思います。子どもが自然に身に付けていけるものではないと。他にありますか。内藤委員。

(内藤委員)子どものアンケートの内容と言うのが、本当なのかという気がします。子どもを持っているものからすると、毎日1時間、2時間勉強しているような子どもは、なかなかいないかなと。もっとやってくれと言うことは、大変になるから言いませんが、これを鵜呑みにして作っているのであれば、支障がでてくるのではないかと思います。子ども半分、大人半分ということで話を聞いておいていただけたらと思います。地域と家庭と学校ということで、今、学校がすごくクローズアップされている。ここまでやられるのかという所まで、組み立てられていると思います。後は、何かと言うと、家庭のところで、もっとやるべきことがあるのかなと。それは、なぜかと言うと、今、共働きのご家庭が多くなってきている。お母さんが夕方帰って来て、何をするかというと食事を作ったり、家庭のことをすると思います。そうすると、子どもというところが、取り残されていると思います。私が、家庭に帰って子どもたちと接していると思うことは、もっと、手を掛けてあげないと、子どもたちのリズムが出来上がってこない。例えば、ICTというものを親も活用して、子どもたちが家に帰ってきたときに、連絡をする。10分もかからないと思うのですが、連絡を取り合って、「帰ったの」でもいいと思います。「宿題何が出た」とか、「帰ってくるまでにやっておいてね」と言うだけでも、家庭は変わってくると思っています。そういったことが、学力向上につながっていくと思います。些細なことかもしれませんが、最近、そのように感じるようになってきました。親がもっと参加するように、ICTも使っていけばいいのではないのかなと思います。学校のことはばかりではなくて、家庭ともつながるICTであったほうが、いいような気がします。その辺も少し、先生達ばかりに負担がくるのではなくて、家庭にももう少し負担が来てもいいのではないかと、これを読んでいて思ったところです。

(杉谷教育長)家庭教育に関わる部分かと思いますが、その辺り委員さんは、どういう思いであるのでしょうか。金築委員。

(金築委員)今、学童を見ているのですが、共稼ぎのご両親が多くて、6時ぎりぎりにお迎えに来られて、子どもたちはたぶん8時くらいにご飯を食べていると思うのです。その間には、ゲームをしたりして、お父さんの存在が見えて来ないのです。お母さんが忙しそうで、お父さんの姿は見えないのですが、お迎えはいつもお母さんです。お母さんは、子ども3人を抱えて、迎えに来て、たぶんご飯を作って、バタバタされて、児童クラブで宿題は見ますけれども、答え合わせはお父さんかお母さんとしてねと言っているのですが、実際見てもらっていることはほとんどなく、読み聞かせもお家でしてねといわれているみたいですが、自分でサインをしているっぽい子も多いです。夜は、親が寝静まってから、こっそり起きて、ゲームをしたり寝不足になって、朝、眠たい顔をしてやってきます。朝ご飯を食

べたときくと、食べていないという子も結構います。これが現状なのかと思います。そういう子たちが学校に来たところで、勉強にならない状況です。お腹が減ったとか、眠たいとか2時間目くらいから、暴れてくる子もいます。集中が続いてないと思われます。お父さん、お母さんも子どもをもう少し見てあげる、精神的なやすらぎを与えてあげられるような状況を作ってあげる。子どもの状況が不安定だと、なかなか学力の方に向かないと思うのです。子どもが家で見てもらっているとか、愛されているという実感があって初めて、安定した勉強の時間を持てると思っています。親さんも多様化してきていて、なかなか子どものことを見て下さる方も少ないのですが、サポートをしてあげたいのですが、やはり親にかなうものではなくて、そこは、お父さん、お母さんがもう少し頑張ってみてもらうと、心を掛けてあげてねと、お金を掛けるのではなくて。例えば、本を読んであげるだけでもいいと思います。そういった時間を少しでも持ってもらうように、ここに盛り込んでもらうということは、難しいかもしれませんが、そういう教育というか、気持ちを持てるようなことができるといいなと、常々思っています。

(杉谷教育長)高橋委員。

(高橋委員)学力向上推進プランの下の「+1する出雲の子ども」とありますが、この「+1」とは、何だろうと思いつながら、展開が早かったのだ。

(杉谷教育長)福間学校教育課長。

(福間学校教育課長)冊子の6ページの一番上に「+1する子ども」と言うのがあります。本市では、前期からこのキャッチフレーズを使って、取り組んでいるところです。簡単に言うともう一歩踏み出して改善していこう、変えていこうということです。そうした気持ち、やる気といいますか、そうしたものを持った子どもたちを育てていこうという意味で「+1」という言葉を使っております。

(杉谷教育長)高橋委員。

(高橋委員)学力向上に当たっては、教えられてすぐできる子と、そうではない子がいると思うのです。差がある子に対しての対応とか。底上げをしていかないと、学力が向上していかないと。時間がかかるというか、支援にも時間がかかってくるのだろうし、目標に掲げながらも、みんなが同じではないので、なかなか難しい部分があると思いますので、一括りではなく、一つでも差があるところでも、何とかしていますというようなことがあると、ちょっと変わってくるかなという気がします。

(杉谷教育長)福間学校教育課長。

(福間学校教育課長)学校におきましては、その子の実態に応じた指導に努めてはいます。一般の授業すべてがということでは、ありませんが。補習の取組みを行ったり、課題の出し方も工夫をされています。その一方で、非常によくできる子についても伸ばしていくということも今後ますます必要になります。その子たちの、学力の実態に応じた指導というのが、例えば、ICTを活用するなどすると、これまで以上にできやすくなると思います。そうしたことに、取り組んでいきたいという内容も盛り込んでいるところです。

(杉谷教育長)高橋委員。

(高橋委員)ICTもこの時期、コロナの関係で学校に行ける子、行けない子もありまして、濃厚接触者になって、学校にいけないという子もいます。うちにタブレットがあるのだけでも、オンラインでつながっていないということを、結構聞いていたので、この部分はなかなか難しい部分もあるかもしれません。今、活用していただきたいような時期なので、そこはなんとか、オンライン授業が早くすすめられるような環境を整えてほしいなと言うことがあります。

(杉谷教育長)福間学校教育課長。

(福間学校教育課長)ご指摘のとおりです。少し、学校間に差が出ているということもあります。そうしたところを、すべて底上げで進むように、我々も、研修とか情報提供をしているところです。そうした中で持って帰って使う、学校と繋がったり、インターネットで繋がるということは、まずは、できることと思いますが、オンライン授業ということは、いろいろ難しい部分があります。正直、まだまだこれからかなというところもあります。それを目指したような研修も取り入れていっております。そういったこともできるようにならないといけないと思っております。市全体、学校と教育委員会が一緒になってやっていくべきかなと思っております。

(杉谷教育長)川田委員。

(川田委員)内藤委員、金築委員、高橋委員のご意見を耳を痛くして聞いておりました。家庭によって、時間的に余裕があるところと、非常に差があるというのが、私の感想です。私も、人のところの子どもばかりと言われてきました。そういう連携ができたらいいなと思いました。先生方非常にお忙しいので、どうしたらいいのか。コロナでまた、違う対応が一昨年、昨年とプラス1ではないですが、大変なことが起きています。時間的な余裕もないし、PTAの活動もできないような状況が続いています。本当にできればいいですね、これから。斐川西中学校の取組で、3年生ではお弁当を親子で作って、それをタブ

レットで写して、学校に送って、作品集を作ろうと言うことを考えています。そういうことが、できればいいなと。タブレットも親子で使えるし、PTAの取組みも、集まらないということもありますので、そういったことを親子活動でやりたいねと話をしています。そういうアイデアを出し合えたらいいなと思いました。

(杉谷教育長)今回説明しているのが、学力向上推進プランということで、家庭ではこういう取組を進めてほしいというようなこちらの願い、それからそうしてもらえそうな環境づくりというところで、記載させていただいています。委員さんから出ている、家庭の役割だとか、大きくなりますが、家庭の教育力という部分が片方ではあると思います。その部分について、常松教育政策課長何かありますか。

(常松教育政策課長)なかなかこの部分に踏み込めないということで、もどかしさを感じているところです。昨年度、策定しました社会教育計画の中で、子どもを核とした地域づくりと言ったことを考えております。企画したものに子どもに出てきてもらおうと、その場所に親が出てきます。そういったところを捉まえて、いろいろな情報を共有したり、何か考え方ができないかなと。繋がっていけば、もっとよりよくなっていくのではないかと考えています。なかなか、それが実践に繋がっていかない、現在はコロナ禍でそういった機会が少ないですけれども、コミュニティセンターとかにも、こういった計画を普及していったって、いろいろ企画する段階で、そういった関わりを持たせるような、関係づくりができないかなと。そういったものを少しずつやっていけたらと思っております。PTA活動についても、授業公開だけ参加して、その後の研修については、参加しないといった実態もよく耳にしています。いろいろな企画と施策を持って、それがつながっていったって、広がりを見せる。そういった仕組みを、即効性はないかもしれませんが、そういった仕組みを少しずつ考えているところです。

(杉谷教育長)学校教育、社会教育両面で迫っていかなければいけない部分かなと思っております。そういう考えでおりますので、また、情報提供させていただきます。いろいろ意見をいただきました。いただいた意見については、参考にさせていただきたいと思えます。以上で、報告は終了いたします。

6 その他

(杉谷教育長)最後に、「その他」に移ります。教育委員会の後援について、教育政策課常松課長 から説明をお願いします。

(常松教育政策課長)資料を用いて説明

(杉谷教育長)説明いたしましたけれども、何かご質問はございませんでしょうか。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)意見、ご質問等ございませんので、その他については、以上といたします。

7 次期教育委員会の開催時期

(杉谷教育長)次期教育委員会の日程ですが、8月24日(水)の、午後3時から、3階庁議室で開催いたします。

閉会

(杉谷教育長)それでは、以上をもちまして、令和4年7月出雲市教育委員会定例会を閉会といたします。

(教育政策課長)皆さま、ご起立願います。一同 礼。

【閉会】(午後3時23分)